

川西北部用水の現地調査と評価について

下呂農林事務所 奥村 英敏

1. 地区の概要

下呂市萩原町は、飛騨川を東西にはさんで、ほぼ南北に広がっています。川西北部用水の受益地の尾崎・野上地区は、飛騨川支線山之口川右岸沿いの河岸段丘に室町時代から人々が住み着き、棚田による農業を中心とした農村が形成されてきました。

近年、中山間地農業の構造的な担い手不足による農業離れによる若年層の非農家化が進み、混住化・農家の高齢化が著しい状況です。しかし、地域社会のまとまりがいまだに強く残っている農村地域のため、目立った遊休農地は存在していない状況が保たれています。しかし、近年山林に隣接した農地に対する獣害が頻発するようになり、農家の営農意欲の低下が危惧されるようになってきています。

2. 用水の概要

川西北部用水は、昭和29～41年度に県営代行開墾事業と町営土地改良事業によって総事業費156百万円(当時)で建設された山之口から取水し尾崎を通り野上までの地域の営農と生活を支える全長8.8kmの幹線農業用水路です。本施設は、 $0.813\text{ m}^3/\text{s}$ の農業用水を通水し、約50haの受益をかんがいしています。また、山地排水を受け、豪雨等の出水を一時的に緩衝することで小河川等への負担を軽減させ、地域の防災にも貢献しています。受益面積当たりの延長が長く、取水施設も多いため、維持管理における労力が多大ですが、川西北部土地改良区において適切に維持管理されています。

しかし、経年による老朽化が著しいため、部分的に県営および団体営事業により改修等の対策が実施され、なんとか用水機能を維持している状況です。しかし、水路全面における摩耗およびクラックが発生し、漏水が著しい状況となっており、必要な用水量の確保が年々困難になってきています。トンネル部においては、頂版部分の疲弊が進み、崩壊が危険視される箇所も存在しています。地域の概況でも述べたとおり、農家の減少や高齢化により施設の維持管理は年々負担となってきています。取水施設等の付帯施設は建設時のまま使用されており、傷みが激しく、緊急時の操作を困難なものとしています。よって、水路及び付帯施設共に老朽化が進行し、管理者に多大な労力を課している状況のため、土地改良区から早急な対策による施設の改修・保全および管理の省力化が望まれています。

また、建設された当時は草地と山林の境目に建設された水路であったが、その後の造林によって、現在は山林中の水路となってしまっています。その山林部分の間伐が適切でないため、山林の荒廃による倒木および土砂崩壊等により水路へ多くの障害を与えています。

3. 営農状況

当地域の営農は、101戸の農家により49.8haの農地が耕作され、水稻を中心とした山間農業です。担い手農家は主にトマト栽培を行う8戸であり、全体的にみると自給的農家が大半を占める農村地域です。地域内に遊休農地は6.5ha点在し若干増加傾向にあります。現在は65歳以上の高齢者農家が多く、高齢化が進行していますが、定年後のいきがい農業としてとりくむ60歳代の人も多く、今後は団塊の世代の定年時に大幅な代替わりによる若干の若返り化が行われる気配があります。但し、営農経験の乏しい人への代替わりは、

遊休農地がより増加する危惧もはらんでおり、将来的に営農形態の集落営農化もしくは農地の集団化を検討する必要性が生じると可能性もあります。

4. 用水の有する多面的機能

防災機能として、地域は一級河川に隣接しているが河床が低く消防水利として利水できないため、渇水期消防の水源は当用水に頼らざるを得ない状況となっています。この事は地域においての当用水の存在価値・意義を高める要因となり、地域ぐるみの保全活動等のまとまりの基となっています。

親水機能として、土地改良区の啓蒙等の努力により年々、存在価値が上がっているため、用水沿いに植栽を行ったり、土地改良区主催のイベント等により、より地域住民に用水に親しんでもらえるようになっています。

環境保全機能として、山之口川の清流を取水し各地区へ安定して分配するため、きれいな水のある環境が保たれています。結果として、田・支線水路等に住む小動植物の生息に良好な環境が保全され、地域住民に自然豊かなふる里で過ごせるという多大な恩恵を与えています。

5. 評価

当用水の地域において命と財産を守る施設「大切な共有資産」として認識が非農家にも徐々に定着してきました。このことは、地域住民意識を水と農地を介した地域ぐるみの保全活動へと抵抗なく導くのに多大な影響を与えています。また、用水路を管理する土地改良区組合員も自分たちが地域の財産を守ってきたという自負が見栄え、地域住民と共同で行う地域おこし活動において中心的な役割を担っています。

受益地の面積が小さいため、多面的機能の評価額としては少額となってしまいますが、地域の財産を守り、地域共同体の創設や誇れるふる里づくり等の地域おこしの源としてのお金では買えない価値（資産）が創造されていると判断されます。

6. 今後の課題

用水施設の老朽化等については、計画的にNN事業等における改修等により改善されますが、遊休農地および放置山林が獣害を増加させ離農を増加させる要因となっており、この用水と農村に与える悪影響を連鎖の打破するために、農業関係者のみならず林業関係者の理解・協力も得て、地域ぐるみでの対策の早期実行が必要となってくると考えられます。